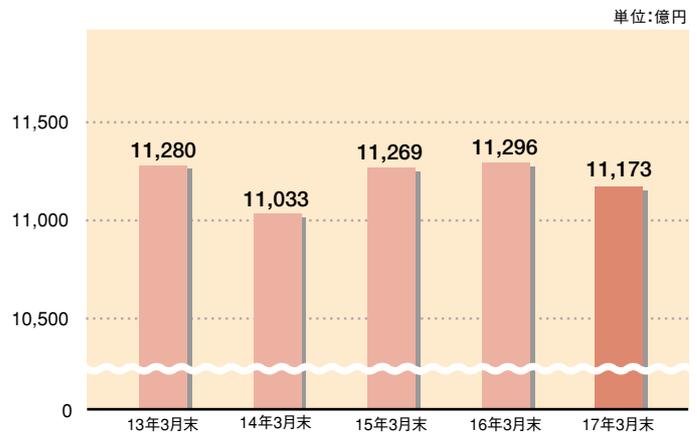


貸出金

証券化の影響を除くと堅調に推移

貸出金の期末残高は、企業の資金需要の低迷や住宅ローン債権の証券化による個人ローン残高の減少から、期中123億円減少の1兆1,173億円となりました。なお、証券化による貸出金の減少263億円を除くと、期末残高は1兆1,437億円、期中140億円の増加となり、住宅ローンを中心に堅調に推移しました。

[貸出金の推移]

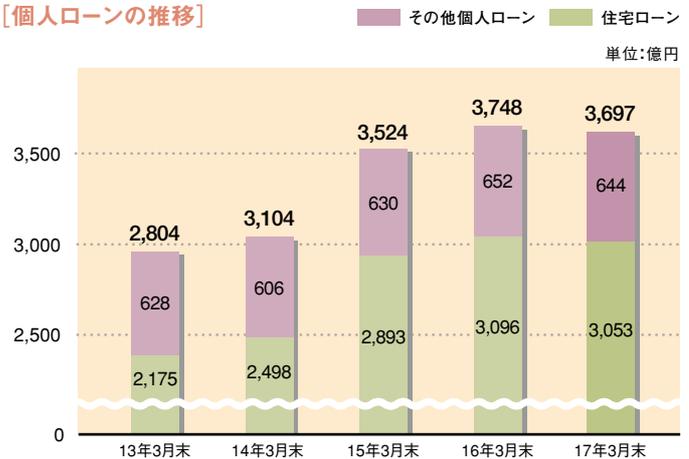


個人ローン

住宅ローンの販売は順調に増加

個人ローンの期末残高は、ガン保障特約付住宅ローンの販売が好調でしたが、住宅ローン債権の証券化により、期中50億円減少の3,697億円となりました。なお、証券化の影響を除くと、住宅ローンの期末残高は期中221億円増加の3,317億円、個人ローンの期末残高は期中213億円増加の3,961億円となり、順調に増加しました。

[個人ローンの推移]



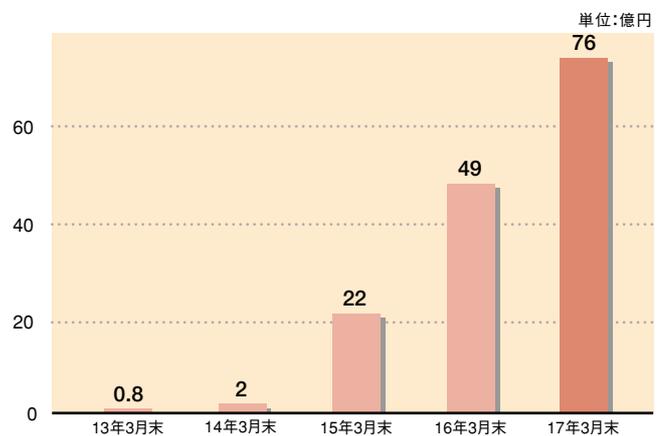
(注) グラフ上の値は各項目とも切り捨て表示です。

事業者向け無担保融資

無担保融資商品の残高は大幅に増加

事業者向けの無担保、第三者保証人不要を特徴とする融資商品の期末残高は、県信用保証協会提携商品の「順風満帆」や、企業の新規事業展開を支援する商品「ベストサポーター」の販売が好調で、期中26億円増加の76億円となりました。

[事業者向け無担保融資商品の推移]



(注) 無担保、第三者保証人不要の事業者向け8商品の合計。